

4月27日（火）人権集会

【人権集会での校長の話】

さて、人権集会に当たり、今日はひとつの資料を読みます。聞いてください。

小学校4年生のとき、算数ドリルで毎日計算練習した。母が「よくがんばるね」とほめてくれた。うれしくてうんとがんばった。

テストの日、となりの人と交換して答え合わせしたら50点だった。4年生になって算数テストで40点を越えたのは初めてだったのでとてもうれしかった。今度もがんばるぞと思った。

次の日、テストを返すとき、先生は90点と100点の人を「よくがんばったね」とほめた。ぼくには何も言わなかった。返し終わってから、先生はこう言った。「今日のテスト、平均点は75点、100点とった人は6人、最低は50点！」ぼくは、母に見せるのを楽しみにしていた50点のテストを、家に帰る途中、細かく破って橋の上からパラパラと川にまき散らした。

それからぼくは、算数の勉強をやめた。

もちろん、これは奈良中学校で起きたことではありませんが、いろんな場面で、悲しい思いをする人がいるんですよ。心を痛めている人に、優しくしてほしいと思います。学校教育目標の「愛情深き生徒」を忘れないで、人の心の痛みが分かる人、思いやりのある人になりましょう。